

市内の小・中学校で英語を教えているA.L.T. (外国語指導助手)の皆さんが、久慈で生活して感じてきたことを紹介するコーナーです。

## My life in Kuji



**ホイットニー・シーバートソン**  
 インディアナ州・24歳／長内小、小久慈小、大川目小、宇部小、久喜小、小袖小、長内中、大川目中、宇部中、三崎中を担当

### セント・パトリックの日

アメリカでは、毎年3月17日にセント・パトリックの日を祝います。これは、アイルランドの文化や伝統に親しむ日であり、アイルランドにルーツを持つ人々が多く暮らすアメリカでは、広く親しまれている行事のひとつです。私の家族もアイルランド系であることから、この日を毎年楽しみにしています。セントパトリックの日を象徴するものがいくつかあり、その1つが「虹」です。アイルランドの民話には、レプラコーンと呼ばれるいたずら好きな妖精が、虹の端に金の壺を隠しているという言い伝えがあり、虹は幸運の象徴とされています。「緑色」もその1つで、当日は緑色ものを身につける習慣があります。緑はクローバーを連想させる色でもあり、四つ葉のクローバーは珍しいことから幸運の象徴とされています。私は四つ葉のクローバーを見つけるのが得意で、久慈でも探してみたいと思っています。皆さんも一緒に探して、小さな幸せを感じてみませんか。

市民

## センターだより



侍浜市民センター  
 ☎53-2110

### 侍浜市民センター事業紹介 津軽の伝統工芸に挑戦

侍浜市民センターでは12月19日、生きがづくり事業「こぎん刺し講座」を開催し、約13人が参加しました。こぎん刺しとは青森県津軽地方に伝わる、麻布の着物の補強や保温のために木綿糸で幾何学模様を刺していく伝統的な刺し子の技法です。現在ではその美しい模様を生かした小物や雑貨など、現代的なデザインにも用いられています。講座は、図案と刺繍糸を選ぶところからスタート。こぎん用の刺繍針や糸、布を使い、普通の刺繍とは刺し方の技法や材料の違いがあるため、参加した皆さんは最初は手間取っていましたが、講師の指導のもと、色とりどりの作品を完成させました。参加者からは「違う図案にも挑戦してみたい」「また講座に参加したい」などの感想をいただきました。これからも創作活動の機会を提供し、生活の質の向上や地域交流を図るための支援を進めていきたいと思えます。

## きらり人輝く

義母から教わった郷土の味を引き継ぎ  
 次世代へとつないでいく  
**郷土料理を伝えていきたい**



Name  
**日沢 志奈子** さん  
 ひざわ しなこ (小久慈町・68歳)

Profile  
 いっぱく工房  
 令和7年度に岩手県食の匠に認定



■義母から学んだ「みみっこもち」  
 みみっこもちは、小麦で作る生地で作るみや黒砂糖を包み、耳のような形にしてゆでた郷土料理です。昔から農作業の休憩「いっぴく」やおやつで食べられてきました。味噌を入れる地域もあり、呼び方も「かまやき」や「ひゅうず」などがあるそうです。私は嫁いながら、義母が作るみみっこもちで黒砂糖入りのみみっこもちを知りました。甘くておいしい味に感動したので覚えています。義母に作り方を教わり、みみっこもちや小麦だんごを作るようになりました。■いっぴく工房を立ち上げ  
 義母が体調を崩したことをきっかけに自宅でできる仕事を考え、平成25年に自宅を改装して「いっぴく工房」をオープン。義母と一

緒に訪れていた市日の出店者とお客様とのやりとりが楽しいと感じていたので、市日への出店から販売を始めました。商品はみみっこもちや小麦だんご、がんづぎなど昔ながらの手作り料理。手に取ったお客さんから「懐かしい」「昔を思い出す」と声をかけていただくこともあります。現在は市日のほか農業協同組合やスーパーの産直、小久慈の朝市や文化祭などで販売。久慈市生活研究グループにも参加し、郷土料理の販売や伝承活動にも携わってきました。■食の匠としての活動  
 機会があれば料理講習会などを通して、幅広い世代、特に若い世代の人と一緒に作ったり食べたりしながら、郷土料理を伝えていきたいです。

## 協力隊 とうしん

**片岡 凜太郎** さん  
 (かたおか・りんたろう 22歳)  
 令和5年4月着任。新潟県出身。短角牛の肥育を学びながら、闘牛大会の勢子としても活動。



### 畜産業の経営を目標に頑張っていきます！

地域おこし協力隊の片岡凜太郎です。主に山形町で短角牛の飼養管理に携わっています。具体的には、農業協同組合の短角牛肥育センターの管理や農家の手伝い、夏の期間はエリート牧野と呼ばれる放牧場の監視をしています。闘牛大会では、勢子としても活動してきました。着任して3年目で少しずつではありますが、ようやく牛の見方や管理の仕方が分かってきたように思います。日々の給餌作業や枝肉視察をやっていく中で、餌の増やし方や具合の悪い牛の見極め、その原因が何かを予想することなどできることが増えてきました。3月いっぱい卒隊になります。これからは闘牛大会の勢子が続けつつ久慈市近郊の牧場に勤めて、より一層牛を育てる技術を高めていくつもりです。そして、山形町もしくは久慈市内で自分で畜産業を営めるように頑張っていきます。



闘牛会のメンバーと記念撮影する片岡隊員(右から2人目)

●地域おこし協力隊…移住定住促進を目的に、都市部からの移住者に対して市が委嘱。カフェを中心とした地域の活性化、新規漁業者の確保や水産物の高付加価値化への取り組み、農泊事業の実践と推進、地域資源の商品開発・販路拡大PRなどを行います。

## 集まれ！ 元気の輪

### 久慈モキハナフラサークル

代 表：嘉藤 幸子 さん  
 活動場所：アンバーホール、よむのすなど ☎0194-35-2594(代表嘉藤)  
 活 動 日：第2・4木曜日19時～20時(変更あり)

わきあいあいと活動しています



令和7年度市民生涯学習のつどいに初参加し、記念撮影

モキハナフラサークルは令和3年から活動するフラダンスサークルで、久慈市、野田村、普代村の子どもから大人まで15人で活動しています。フラダンスは、本場のハワイで学び、指導者の資格を取った先生の教室からインストラクターに来てもらい教わっています。メンバーはほとんどが初心者で、楽しむことを一番に健康作りもかねて活動。見る人を豊かな気持ちにさせることができるように表現力を磨いています。メンバーも随時募集しています。私たちと一緒にフラダンスを楽しんでみませんか。